

優秀賞（神奈川新聞社賞）

境界線を乗り越えて

伊勢原市立中沢中学校 3年 ^{ほんま}本間 ^{ほまれ}誉



「実は私、クリスチャンなんだ。」

私は毎回、この言葉を友達に伝えるとき、不安に襲われます。しかし、ある時から、私は変わりました。

今年の春、ある友達に「実は私、クリスチャンなんだ。」と打ち明けました。私はてっきり「何それ。」と言われてたり、不思議な顔をされたり、馬鹿にされたり、興味の無い相づちが返ってくるだろうと思っていました。ところが、全く予想もしなかった反応が返ってきました。

「そうなの。私もだよ。」

腰が抜けるほど驚いたこと、そして、同時にこれまで感じたことの無い心からの喜びが込み上げてきたことを今でも鮮明に覚えています。

私はその友達に、「クリスチャンであることを言うのがいつも怖い。それを知ると大抵の人から壁を作られてるんじゃないかなって思ってしまうんだ。それに、友達が信じられないときがあるんだ。」と伝えました。すると友達から鋭い一言が返ってきました。

「もしかしたら、壁を作られたんじゃないくて、自分で壁を作ったんじゃない。」

その言葉に私はハッとさせられました。幼い頃から、周りの子と違うということを感じながら生活してきました。そして、周りの人から私は違うと思われている、壁を作られていると勝手に思っていました。しかし、それは違いました。確かに、相手から見えない壁を作られ、避けられてしまうことがありましたが、それ以上に私自身が無意識に周りの人と壁を作ってしまっていたことをその友達に教えられました。また、私は他の友達のことを自分の経験から勝手に決めつけてしまっていたこと、そして、友達を信じられなくなった理由が自分のことを信じていない私自身にあることに気付かされました。私と友達、私と他者、今の私と過去の私。それぞれ目に見えないけれど、確かに存在する境界線があることを知りました。

誰も、自分と他者を比べて落ち込むことや、そのギャップに苦しむ経験をするところがあるのではないのでしょうか。その結果、他者のことを信じられなくなったことがある人もいます。

私は今回、自分が経験したことから、ほんの少しの勇気を持って、自分が大切にしていることと自分の本音を

打ち明ける、ということを伝えたいです。それは、ある意味、他者との境界線を越えていくことでもあります。クリスチャンであることを言うのは、不安で怖かったけれど、私は、自分について友達に話すことで、素敵な友達と出会うことができました。そして、心から友達のことを信じられるという喜びに満たされました。

AI やロボットは生産性が高く、使いようによっては便利ですが、人間のような感情や多様性はありません。人には心があり、それぞれ特有の個性があり、世界中に同じ人は誰ひとりいません。そんな違い、境界線があるというのが人の素晴らしいところだと思います。とはいえ、違いや境界線があるから、心があるからこそ、人は悩みます。そのような悩みや心の貧しさから、いじめなどの問題や差別、犯罪、そして民族や国同士の戦争にまで発展してしまうと私は考えます。特に、いじめなどの人間関係の問題はその代表であるのではないのでしょうか。きっかけは些細なことがほとんどで、例えば、相手のことを羨ましく思ってしまったたり、それが妬みに変わってしまったたり、ちょっとした感情のもつれが対立につながり、いじめや争いの原因になりえます。また、私のように相手のことを勝手に決めつけてしまい、無意識にレッテルを貼り付けてしまうものです。

私たち人間は、無意識でいたら、このようないじめや差別、犯罪、民族や国同士の戦争を解決することはおろか、すぐにそれらに手を染めてしまいます。しかし、他者との境界線を知った上で、自分自身と他者のことを信じることで、素の自分を相手に伝えることができます。

これからも私は、自分と他者との違いについて悩むことや、落ち込むことがあると思います。そんな時は、友達の言葉と自分の経験してきたことを胸に、本当の素の自分について伝えていきたいです。違いという境界線を乗り越えて。